

市長のあいさつ



今年、横浜は開港 150 周年、市制 120 周年を迎えました。かつて 100 戸ほどの寒村だった横浜は、現在 367 万人の人口を擁する大都市に発展しました。開港以来の歴史とともに歩んできた国際都市としての顔、水・緑豊かな環境都市としての顔、古いものを生かしながら、新しいものを生み出す創造都市としての顔など、多様な顔を合わせ持っていることが横浜の魅力です。さらに、住環境の改善、街並みの保全から福祉や防犯まで、様々なまちづくりの分野で活動する市民、NPO の皆さんの存在が横浜の大きな活力となっています。

市民の皆さんと行政が力を合わせ、身近な地域のまちづくりを推進するための横浜独自の制度として、平成 17 年 10 月に「地域まちづくり推進条例」を施行してから 4 年が経過しました。この間、条例を活用しながら、まちづくりに自ら取り組む市民の皆さんが次第に増え、その活動の幅も広がり多彩になっています。

「地域まちづくり白書 2009」は、まちづくりの課題や魅力を、土地利用の状況、自然、歴史などの切り口で解説しながら、あわせてその中で展開されている市民主体のまちづくり活動の事例や、条例制定後の地域まちづくりの推進状況を図表や写真を交えてわかりやすく紹介しています。

本冊子が、地域まちづくり活動を自ら行ったり、支援してくださっている皆さんに、横浜市の地域まちづくりの状況について理解を一層深めていただくとともに、身近なまちの環境に関心を持ち、まちを良くする活動を行おうと考えている皆さんの一助として、御活用いただければ幸いです。

横浜市長 林 文子

目次

| | |
|----------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| 第 1 章. 横浜のまちと地域まちづくり | 2 |
| 第 2 章. 地域まちづくり推進条例と地域まちづくり | 8 |
| 第 3 章. 地域まちづくりのこれまでとこれから | 22 |

第1章. 横浜のまちと地域まちづくり

身近なまちを安全・快適で、魅力あるものにするため、地域のみなさんが自分たちのまちについて考え、取り組んでいく地域まちづくりの活動が、市内各地で活発に展開されています。

それぞれの地域の特徴や課題に応じて、住宅地の街並み保全を目的としたまちのルールづくりや密集した住宅地の住環境改善をはじめ、水と緑、歴史、安全・安心・福祉、地域交通など幅広いテーマで取り組みが行われています。

第1章では、土地利用、自然環境、歴史資産、人口、交通環境の5つのテーマを取り上げ、横浜市の市域図上にそれぞれのテーマごとのデータをプロットして、各地域の特徴や課題を浮き彫りにするとともに、テーマに沿った地域まちづくりの事例を紹介していきます。

データから地域がどんな課題、魅力を持っているのか、実際にどのような地域まちづくりの活動が行われているのかを見ていくことで、身近なまちをより良くするために皆さんがまちづくりの活動を始め、取り組んでいく上でのヒントになるのではないのでしょうか。

| | | | | |
|---|--|--|---|--|
|  <p>①住環境の保全・改善や商店街の魅力づくりに取り組む → p.3</p> |  <p>②身近な自然を守り、緑を育てる → p.4</p> |  <p>③歴史などの地域資源を生かす → p.5</p> |  <p>④安心して暮らせるまちをつくる → p.6</p> |  <p>⑤身近な交通環境の改善に取り組む → p.7</p> |
|---|--|--|---|--|

「地域まちづくり白書 2009」について

「地域まちづくり白書2009」は、地域まちづくりの推進状況を多くの市民の皆さんに知っていただくために、図表や写真等を交えてわかりやすく紹介したものです。

横浜市では、地域まちづくりの推進状況を検証し、これからの地域まちづくりに生かすために、地域まちづくり推進条例に基づく地域まちづくり推進委員会の審議を経て、地域まちづくり推進状況報告書・評価書・見解書を作成し、白書の発行と同時に公表しました。

(ホームページアドレス <http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/chiikimachi/joureiseido/suishinreport/>)

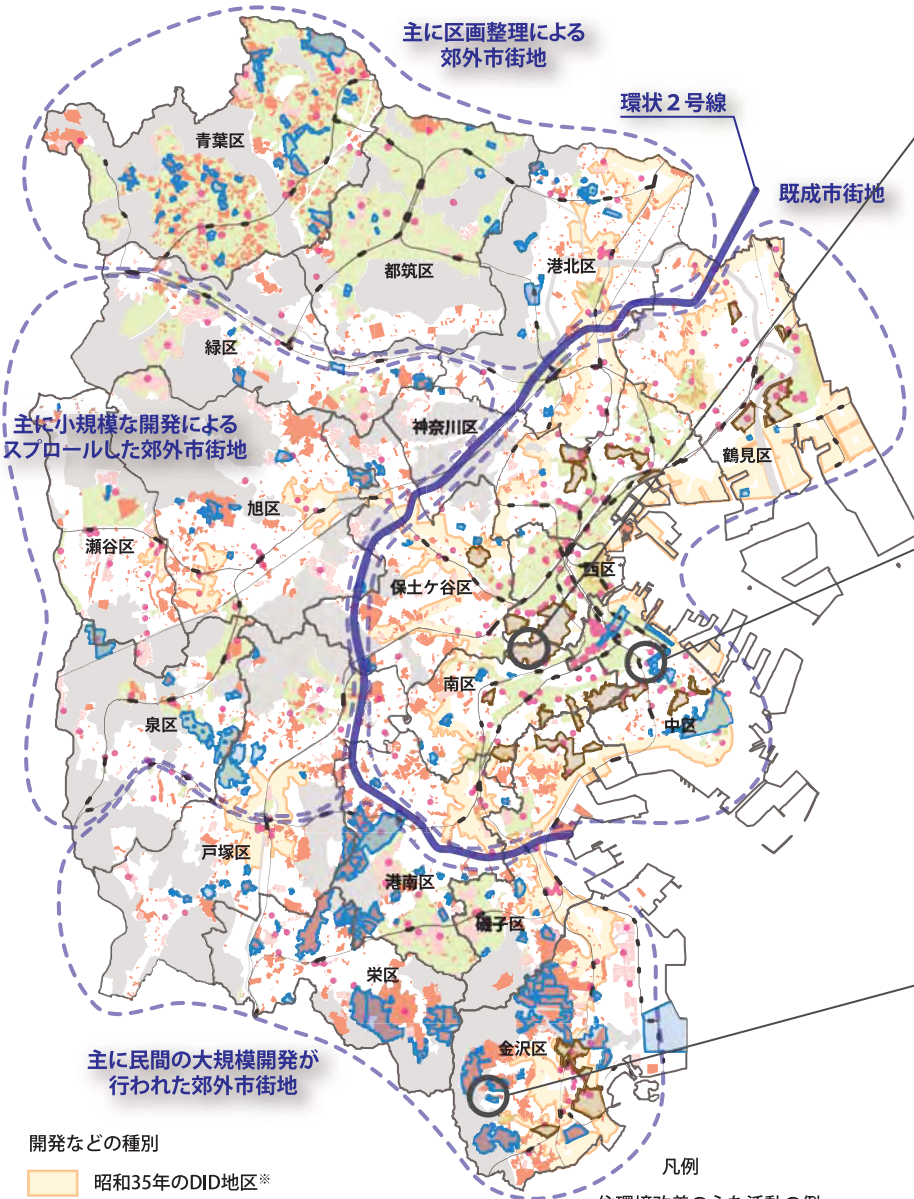
報告書では取り組み状況と各種データを、評価書では委員会からの評価・意見を、見解書では評価書に対する横浜市の考え方を掲載しています。「地域まちづくり白書2009」は、これら報告書等を踏まえ、わかりやすくコンパクトに編集しています。報告書等もご参照いただければ幸いです。

- 横浜市域は面積約 435 km²で、市街地が形成された経緯により、土地利用の状況や地域課題が異なり、大きく4つの地域に特徴づけられます。
- 環状2号線より臨海部側の「既成市街地」は、横浜の近代化に伴い市街地が形成された地域で、都心部の商店街の魅力づくりや、密集住宅地における、防災まちづくり活動などが行われています。
- 北部の「主に区画整理事業による郊外市街地」は、港北ニュータウンや田園都市線沿線など計画的に開発された住宅地が多く、建築協定が数多く結ばれるなど、ルールづくりが盛んです。
- 中部の「主に小規模な開発によるスプロールした郊外市街地」

街地」では、相鉄線沿線など古くからある市街地や小規模開発地、基盤整備が不十分な地域がモザイク状に分布しています。

- 南部の「主に民間の大規模開発が行われた郊外市街地」では、良好な住宅地とともに、基盤整備が不十分な地域も多く、建築協定などのルールづくりをはじめ活発な活動が行われています。
- 一斉に開発された団地の更新や空家対策が課題になってきた地域があります。
- 地域生活の拠点として、魅力づくりに取り組んでいる商店街が多くあります。しかし一方で、空店舗増加などの課題を抱えているところもあります。

土地利用の現況と活動の例



いえ・みち まち改善事業
～三春台地区～(南区)



三春の丘まちづくり協議会では、防災まちづくり活動の一環としてまち歩きやアンケート調査を通して見えてきた課題の解決に向けて、「防災まちづくり計画」の作成を進めています。

商店街のまちづくり
～元町商店街～(中区)



都心部の元町地区では、まちづくりの長い歴史があります。平成21年度には、これまで運用してきたまちづくりのルールが市の認定を受けました。

建築協定運営活動
～ウッドパーク金沢文庫地区～(金沢区)



昭和60年代に開発された住宅地で、当初の環境を維持・向上させるために、開発者が建築協定を締結しました。その後、地域の住民で運営を続け、更新を経て現在に至っています。

開発などの種別

- 昭和35年のDID地区※
- 土地区画整理事業による計画市街地
- 開発許可による計画市街地
- 公的住宅
- 市街化調整区域

凡例

- 住環境改善の主な活動の例
 - いえ・みちまち改善事業対象地区
- 住環境保全の主な活動の例
 - 建築協定・地域発意の地区計画
- 商店街

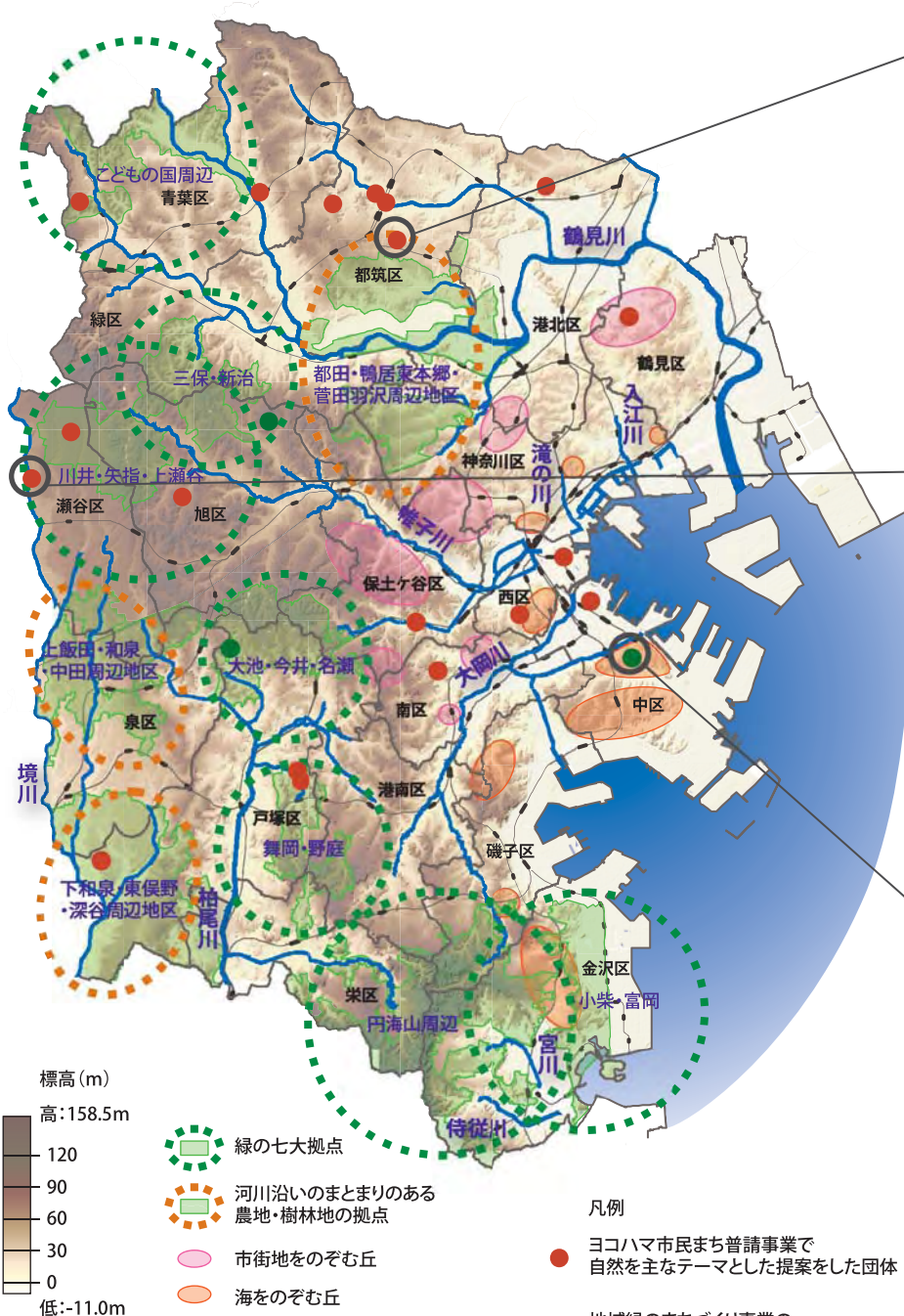
※DID地区：人口集中地区のことで、人口密度が4,000人/km²以上の地区が隣接して、合わせて人口5,000人以上を有する地区

② 身近な自然を守り、緑を育てる

- 横浜市の大部分は、多摩・三浦丘陵や台地により形成され、起伏に富んだ地形となっており、海を望む眺望の良い地域も多くありますが、坂の多さが生活の課題となっているところも多くあります。
- 市内には、鶴見川、帷子川、入江川・滝の川、大岡川、宮川・侍従川、境川とその支流の柏尾川などの多くの河川があり、水辺愛護会が活動しています。
- 緑の七大拠点や斜面緑地など、緑の環境を守り育てるべき大切な場所があります。

- 身近な地域では、ルール・プランづくりや、ヨコハマ市民まち普請事業の提案の中で、地域にふさわしい身近な緑を大切にする様々な取り組みが行われています。
- 市内では、よこはま緑の推進団体、公園愛護会など数多くの団体が緑化をテーマとした活動を行っています。また、今後「地域緑のまちづくり事業」による、緑をテーマとした地域まちづくり活動が広がっていくことが期待されます。

地形と水と緑の現況と活動の例



荒磯川の源流づくり～茅ヶ崎公園～(都筑区)



茅ヶ崎公園にある荒磯川の源流にあった美しい日本庭園を、地域の人々のアイデアと力を結集して復活しました。

境川の桜並木名所づくり(瀬谷区)



境川沿いと鎌倉古道沿いに、桜などを植えるプロジェクトが、ヨコハマ市民まち普請事業を活用して実現しました。グループのメンバーが一軒一軒の家を回り、計 151 本の樹木を植えました。

緑の山手づくり(中区)



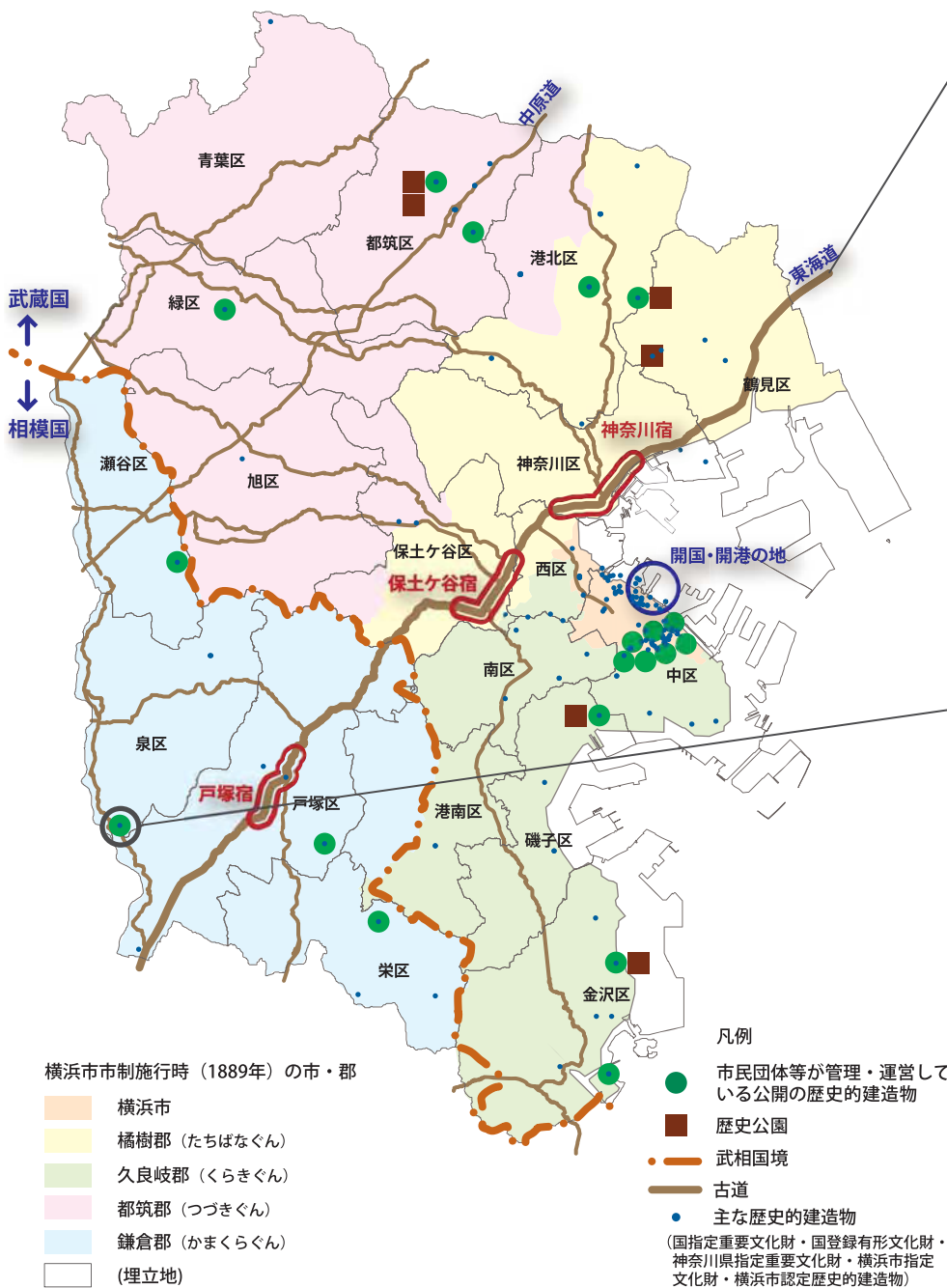
山手まちづくり推進会議は、街の中にチューリップの花絵をつくるチューリップアートプロムナード(主催(財)横浜市緑の協会)への参加や山手まちづくり協定の締結、景観木調査を経て、地域緑のまちづくり事業に取り組み始めます。

(データ出典: 国土地理院 基礎地図情報 5mメッシュ、『横浜市水と緑の基本計画』横浜市環境創造局、2007年)

- 横浜市では、「歴史を生かしたまちづくり」として、歴史的建造物の保全・活用を図る取り組みを市民と協働で進めてきました。
- 横浜市は、江戸時代以前、市域の東側が武蔵国（むさしのくに）、西側が相模国（さがみのくに）に属し、保土ヶ谷宿と戸塚宿の間にその国境（武相国境）がありました。市域を横断する旧東海道には、神奈川宿、保土ヶ谷宿、戸塚宿の3つの宿場がありました。
- 東海道のほかにも、市内には数多くの古道があり、重要な地域資源となっています。

- 都心部周辺には、開港以来の近代の歴史的建造物等があります。また、郊外部には社寺や民家などが残されています。市内に点在する歴史的建造物等は重要な地域資源として高く評価されています。
- 戦後期も含めた地域の身近な歴史や様々な地域資源を再認識し、生かしていく取り組みが始まっています。それらの地域資源をさらに生かすために、市民との協働により散策ルートを作成するなどの活動も行われています。

歴史などの地域資源の現況と活動の例



旧東海道等街道沿いのネットワーク型まちづくり



旧東海道沿いでは、各地域で様々な団体が活動しています。平成19年度からは「東海道 風景街道」として旧東海道沿いのまちづくりグループが集まり、ネットワーク型のまちづくり活動を始めています。

歴史と自然の公園づくり活動～天王森泉公園～（泉区）



平成6年の天王森地区の自然を生かしたまちづくりワークショップをきっかけとして活動が始まり、公園の計画づくりワークショップメンバーを中心に愛護会を結成しました。現在では豊かな自然と、明治44年ごろ建築された天皇森泉館〔旧清水製糸場本館（市認定歴史的建造物）〕の維持・管理やイベントなどを行っています。

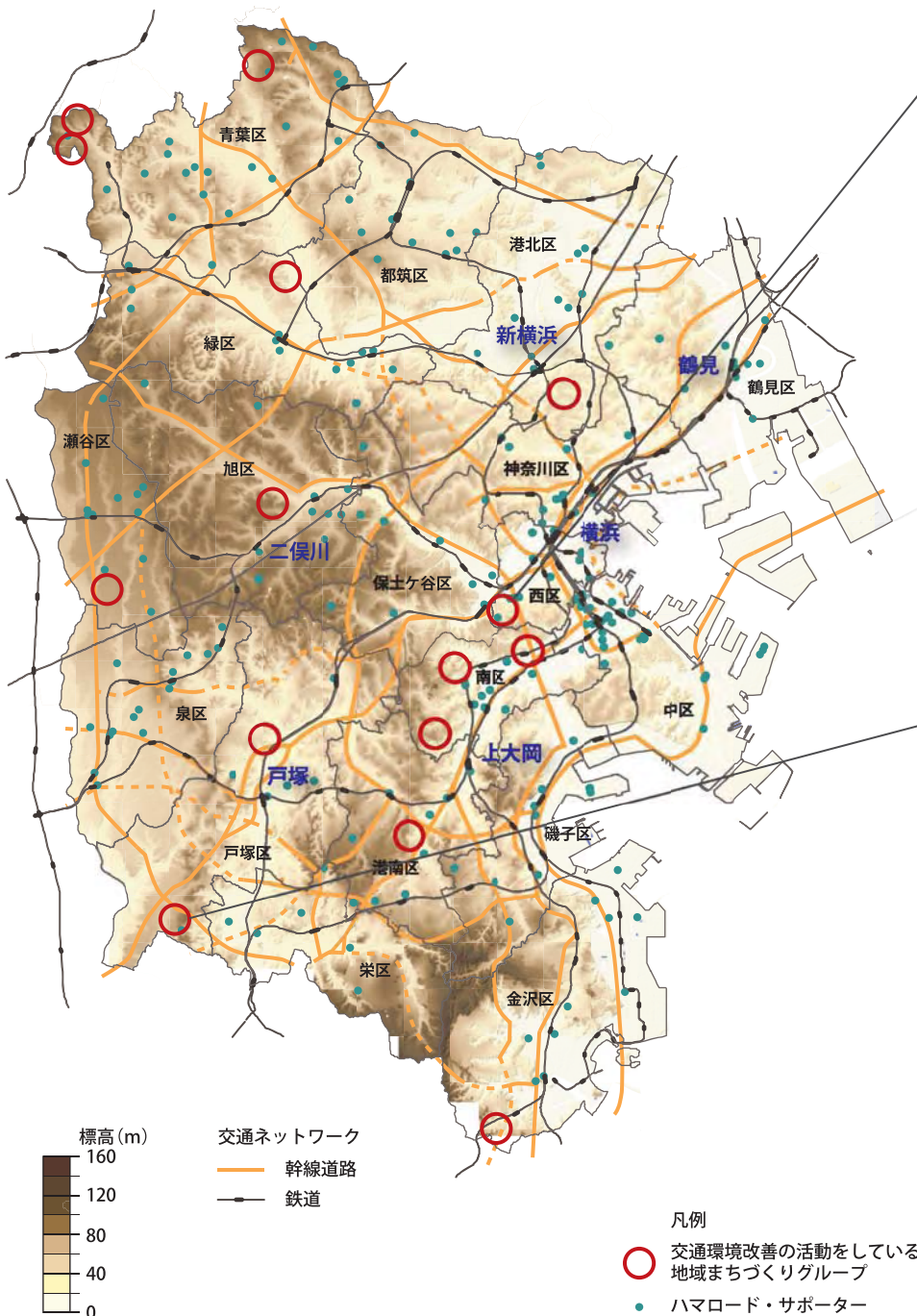
（データ出典：『横浜の古道』横浜市教育委員会、昭和62年、『都市の記憶 横浜の主要歴史的建造物』横浜市歴史的資産調査会、平成19年）

5

身近な交通環境の改善に取り組む

- 横浜市内の鉄道・道路網の整備は計画的に行われてきましたが、急激な人口増に対応しきれず、市街地のスプロール化が進行しました。
- また山坂が多い横浜の特徴もあり、高齢化の進展に伴い交通不便を感じる市民も多くなっています。
- 地域が主体となって交通不便を解決する取り組みを支援するために、平成19年度から「地域交通サポート事業」が始まり、実際にミニバスの運行なども始まっています。
- 地域の身近な道路の美化や清掃を、地域と行政が協働して行う「ハマロード・サポーター」制度が市内の各地で取り組まれており、平成21年3月現在で225団体が活動しています。
- 歩行者の安全性の確保や地域内の通過車両の速度制限など、地域の身近な交通の課題を、地域で考え、できることから解決していく取り組みも行われています。

交通環境の現況と活動の例



丘陵地での「夢やさい」販売～東久保町地区～(西区)



「いえ・みち まち改善事業」を進めている「東久保まちづくり協議会」が戸塚区内の農家と契約し、朝取りの新鮮野菜を会館などで販売しています。まちづくりのための自主財源確保を目的にはじめた取り組みですが、丘陵地の商店も少ない住宅地において、地域のお年寄りにも歓迎されています。

地域交通サポート事業～小雀地区～(戸塚区)



小雀地区では、高齢化が進む一方、バス停まで遠い箇所もあり、町内会を中心とした「小雀西地区交通対策委員会」を設立し、平成20年10月より乗合タクシーの実証運行を行いました。委員会のPRもあり、利用者が増え、平成21年7月からは本格運行を開始しています。